

令和7年第13回議員定数等調査特別委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年3月25日（火曜日）			開会	9:53		会議場所		別海町議会 委員会室 1	
				閉会	11:56					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	3 番	高橋 眞結美	出席	
	8 番	田村 秀男	出席	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	
	12 番	松原 政勝	出席	13 番	中村 忠士	出席				
委員外の出席								合計	0名	
事務局職員	局長		干場 富夫	主幹		木幡 友哉		合計	2名	
傍聴者数	一般		0名	報道関係者		0名		合計	0名	

会議に付した事件及び会議結果など

発言者			会議経過
委員長	12番	松原	9:53 開会
			出席委員8名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日 開会挨拶
委員長	12番	松原	議事1 議員のなり手不足に関する調査について
事務局	主幹	木幡	・前回会議で議員のなり手不足に関し、各委員から出された意見をまとめた。 これが最終報告内容ということではなく、今後、新たな調査結果が出た場合などには随時修正を行うので、あくまでも現段階におけるまとめ。 前文は全国町村議会議長会の報告書をもとに本町に当てはまる現状、課題を記述し、後段で原因と解決策や残る課題などをまとめた。 気になる点、追加、修正等の意見があればいただきたい。
委員	9番	小椋	・特別委員会としての調査内容はうまくまとめられたと思うが、あとは広報・広聴常任委員会の仕事になるので、特別委員会としては、今後の広報・広聴活動において、なり手不足対策としてどういったアクションを盛り込んでいく必要があるのかを示すことが、この委員会の最後のポイントではないか。
委員長	12番	松原	・そのとおりだと考える。
副委員長	8番	田村	・せっかく広報・広聴は全員参加として、広報と広聴で役割分担もしたので、それぞれの活動方針、ロードマップを作るなどして、次の改選までの2年間でしっかりと下地を整えないといけない。
委員	11番	今西	・広報・広聴活動も大事だが、やはり地域の重要性も訴えていきたい。 環境が変わってきて、議会が一つの地域、つまり町全体の代表という役割になりつつあるが、地域選出議員もまだ残っている。 そこを大事にしていきたい。
事務局	主幹	木幡	・委員の総意であれば、そういう2本立ての考えで進めても問題はない。なお文中には盛り込んである。
委員	13番	中村	・議員は地域の課題を解決することが大事で、それを考える単位として地域があって、そこから課題解決のための代弁者として選出されるといった流れは、なり手確保の方法の一つとしていいと思う。 また、地域的な課題以外にも農業分野、水産業分野、演習場など、個別の課題もあるので、そういった単位、属性からの後継者の育成も必要だと思う。 話は変わるが、文章の表現について、1点気になる部分がある。 「かつての町村議員は名誉職としての位置づけが強かったものの、昨今では価値観やライフスタイルの多様化からその意味合いは弱まりつつあり、名誉職としての議員を目指す方は少なくなっています。」とあるが、少なくなっていますと表現すると「少ないけど、いる」ということになるので、今の別海町議

令和7年第13回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		会を表現する言葉としてはふさわしくない気がする。 個人的には、今はそういう議員はいないと思っている。
委員	2番 吉田	・なり手不足を考えたときに、議員、議会側のイメージと、町民が思っているイメージの乖離がまさに問題なのではないかと思った。 おそらく、町民は大半がまだ名誉職として見ていると考える。 このイメージの乖離を近づけるために活動していくといった意味合いも含めて、「名誉職」というワードは残しておいたほうがストレートな表現かと感じている。 その中で、一部の個人から町を変えたいという人が出てきているが、子育て世代や働き世代にはまだまだ参加しにくい状況であることから、断念する人もいると考えるので、今後は子育て世代、働き世代が参加しやすい環境づくりが大事であるとおつなげてはどうか。
委員	11番 今西	・我々が議員になる前の世代の人たちを思い返したときに、子育て世代、働き世代だった。 自分の仕事を持ちながら議員活動を行い、残った家族や地域が家庭やを守ったりしていた。 今は地域という単位がなくなって、町全体で一つの単位に変わってきたが、後押ししてくれる町民の手助けがないと議員活動は難しいと考える。
委員	2番 吉田	・なり手不足については、立候補の背景に焦点を当てるよりも、議員はどんな仕事をしているかを周知することや、子供がいても活動できる環境を用意していくことが解消の一つになるのではないかと思います。
委員	1番 市川	・大前提として、働きやすさ、参加しやすさが必要であることはそのとおりであるとして、自分が議員になる前は、現職議員の顔を一度も直接見たことがなかった。 私も議員になって、街中であった人には、「あ、本物の市川さんだ。」と言われ、嬉しそうにされる方がいるということは、やはりマスコットの存在であると言える。 議員とつながる嬉しさが、多少なりとも町民にはある。そういった繋がりを広げていって、身近にいてることを感じてもらうことが大事だと思った。 広報誌での情報発信だけでなく、議員自身が議会の広告塔として活動を伝えることが大事。 こんな人がやれるんだったら自分もできるのではないかと思いますもらえたらそれでいい。 吉田委員も言っていたが、私も議員は名誉職だと思っている。 立候補の際には「先生になるんですね」と言われた。町民の下で働く立場だと言っても、特に年配の方ほど通じない。 身近につながった人からは会議の多さや仕事量に驚かれる。それくらい議員という存在は未知。 議員が未知の存在ではなくなれば、なり手は増えると思う。
委員	3番 高橋	・私は名誉職であるということすら意識せず、議会という会社に入っていくというイメージだったが、実際に「議員さんにはそんなことは言えない」などと一線を引かれることがあるので、名誉職だと思われているのはそうかと思う。 だが、報告書の文章表現としては少し気になる。 また、地区や業種などの属性ごとに後継者を育てて引き継ぐというのはいい

令和7年第13回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員 9番 小椋	ことだと思う。
	・名誉職というものが、ネガティブな部分ばかりではなく、名誉ある仕事だから報酬が安くても、忙しくても文句を言わずやろうという部分があった。 だから現役を退いた人の割合が昔は多かった。名誉があるから他を捨てて頑張ってくださいということ。 今の議会というのは、地域の中の役割として、まさに会社のようになってきて、働き方改革をして働きやすい環境をつくっていかうというふうに変わってきた。 議員活動に対する認識が変わって、より地域の役割として具体化されたという部分があれば誤解のない表現になるのではないかと思った。
委員長 12番 松原	・昔は、どんな集まりでも、議員もそうだし、会長や組合長などの代表者とその周辺の少人数で決まることが多かったが、今はそういう時代ではない。 みんなで意見を出し合って、協議し進めていくのが主流。 私も地域からの候補として議員になったが、議会の仕事など全く分からなかったが、今はYouTubeも活用したり、様々な情報提供をしている。 子育て世代や働き世代が参加しやすい環境を整え、さらに情報発信を行って次の代につなげていく必要がある。
委員 13番 中村	・報告書の中で、前段は調子よく話が進んでいって、最終的に子育て世代、働き世代の参加に関する部分で突然切れが悪くなっている。 確かに現状としては課題であり、具体策はないことからこれから議論していくこととなるが、この課題にある程度の方向性を示すことが、この委員会の責務になると思う。 別海町議会にあっては、内情を知れば知るほど業務の大変さが分かってきて私の周囲でも業務量に驚く人もいる。ただし、そこには我々の主観が入り、話し方によって左右されるので、子育て世代や働き世代が参加できるような客観的な体制、環境づくりが必要ではないか。
委員 9番 小椋	・議員になりやすい環境ということだけではなく、議会に参加しやすい環境づくりも併せて考えていく必要がある。 その中で、興味のある人、やる気のある人に対して、議会は何ができるかを見える化して示していき、議員を目指せる仕組みを用意していければいいのではないか。
委員 11番 今西	・かつて地域が担っていた議員になるための筋道を、今は議会自体が担う時代になってきている。
委員長 12番 松原	10:48 休憩
委員長 12番 松原	10:54 再開
事務局 主幹 木幡	・まとめると、報告書の内容については、名誉職を目指す人がまだいるといった見え方になる表現は避けた作文に修正し、話の流れとして、町村議会議員は名誉職ではなくなっていること、今は積極的に町を変えたいと思っている人が選挙に出るようになってきたこと、しかし、議会の活動内容が分からないため出づらい状況にあるという内容に整えたい。 なお、かつて地区が担ってきたことを今後は議会が担っていくべきであるということについては、なり手不足対策から少し外れるため、この報告書には加えないこととしたい。 また、なり手不足対策の柱は2本で、いかに議会に興味を持ってもらうかと

令和7年第13回議員定数等調査特別委員会 要点記録

			いうことと、いかに参加しやすい環境を整えるかということであり、2点目については今後煮詰めていくということによろしいか。 ・名誉職という表現を地域の代表に置き替えることでニュアンスのずれは少なくなるのではないかと。 また、「地区や集落などからの推薦や後押し」という部分に、「産業」を追加すると具体化するのではないかと。 例えば、酪農代表や漁業代表などの産業形態が基盤の議員も可能性としてはあると思うので。
委員	9番	小椋	
			・集落の記載はいらないのでは。 ・では集落は抜く。
委員	13番	中村	
事務局	主幹	木幡	
委員長	12番	松原	議事2 その他
			(1)行政視察について ・視察先は北海道町村議会議長会と白老町議会とし、日程は6月24日から26日までを予定している。 本日は調査項目の抽出を行っていただきたい。 24日午後から北海道町村議会議長会へ何う予定で、調査項目案としては、例えば、「報酬の算定方法に関する考え方について」、「議員定数の増減に関する考え方について」、「政務活動費の導入に関するメリット・デメリットについて」などが考えられる。 次に、25日午後から白老町へ何う予定で、調査項目としては、前回会議時になり手不足対策の延長として広報・広聴に関する部分も聞きたいとの意見があったことから、例えば、「報酬の算定方法に関する考え方について」、「議員定数の増減に関する考え方について」、「なり手不足対策としての広報・広聴活動について」などが考えられる。 なお、宿泊は、1泊目が札幌市、2泊目が白老町を予定している。 ・多く上げても調査しきれかわからないので、事務局案の3点ずつでいいのではないかと。 ・そういう意見だが、よろしいかと。
委員	9番	小椋	
委員長	12番	松原	
委員		一同	
委員	9番	小椋	
			・西科サポーターが今年度から白老町に転勤になったので、時間が取れば、意見交換会などを計画してもいいのではないかと。 ・念頭に置いておく。状況は随時連絡する。
事務局	主幹	木幡	
委員長	12番	松原	(2)その他
			・本日の議題はすべて終了したが、時間がまだあるので、自由討議という形で定数や政務活動費に関する各委員の意見を聞かせてもらいたい。 ・政務活動費は今回の研修の後に議論すればいいと思う。報酬は議員活動調べを基にして増額されるというイメージは共通であると思うが、定数に関する議論の方法がまだ見えていない。 最終的にはいくつかの案を出して投票ということになるのか。 ・10年前の委員会では、最終的に評決で決定した。 ・ということは、現状維持、マイナス1名、マイナス2名の3パターンくらいになるような気がするが、案を明確にする必要があると思っている。 ・定数を減らす根拠というのは、今後の人口減少に合わせて論じる以外の方法はないような気がするが、人数を減らしたので仕事量が増えたから報酬を増や
委員	13番	中村	
委員	9番	小椋	
委員	2番	吉田	

令和7年第13回議員定数等調査特別委員会 要点記録

		しますという説明とするのか、人数を減らしても今の仕事量でやっていけると説明するのかで、町民の捉え方は大きく変わるのではないかと。 ・人口ももちろんだが、定数は予算規模や行政面積でも考えたほうが良いのではないかと。 ・委員会体制を変えて3委員会を2委員会にしたということは説明できるのだがそれが今後どう影響するのか、広報・広聴常任委員会に全員が所属することでどう変わるのかといったことがまだイメージできていない。その部分がイメージできれば、今後の各委員会の業務内容などから、報酬額や必要人数に対するイメージもできると考えるので、各委員の意見を聞きたい。 ・何人が妥当かという算定については、概ね3パターン程度考えられ、まずは常任委員会に何人いれば議論できるかということが1つ。人口比例方式、議員1人が町民何人の代表となっているかを基にする方法が1つ。そして、類似団体との比較方式が1つ。 これらの数的根拠も加味して検討しなければならない。 定数は、将来人口減を見据えた人数に、報酬は、調査結果も参考にしながら期待値も含めて、将来の議員の活動に見合った額にしたほうが良いと思う。 ・ここで結論は出ないにしても、議論していく順番は決めておいたほうが良いのではないかと。 報酬については、6月の調査終了後に委員会体制変更に関する調整等を試算する必要があると考えた場合、9月頃までは報酬の議論に取り掛かれないことが予想される。 その間の調査項目を決めておけば進めやすいのではないかと。 ・委員会構成も変わって今後、議員の稼働時間が増えることが想定される。報酬は審議会にかけると必要があるので、8月くらいに固まっていれば9月には審議会にかけて令和8年度から新報酬とすることも考えられる。 なので、手順としては、まず報酬の調査、次に定数の調査、最後に政務活動費についてとなるのではないかと。 ・来年度から新報酬とすることもあり得るのか。 ・町民の意見を聞くことは必要で、根拠をはっきり示せる準備が必要ではないかと。その前に議会内の合意を得る必要もある。令和8年度は厳しいと考える。 ・町民に理解してもらえるかどうか大きな要素で、批判を受けないようなしっかりした根拠を持つておくことが必要。 ・委員会構成の変更は議会機能の強化をうたって行った。その体制で2年間実施してみて、次期からは相応の報酬が必要だとするほうが町民への説明としても良いのではないかと。 ・定数減と報酬増が同時になると、単にバランスを調整したように見えてしまう可能性があるのでは、そこは避けたい。 定数の議論と報酬の議論ははっきり分けて進めたい。 ・月に2回でも3回でもこの会議を開いて議論を進めれば間に合うと思う。 物価が上がってきている中で、10年間議員報酬は上がっていない。町の理事者報酬も上がっていないので、町として見直すタイミングとしてはいいと思うが。 ・いずれにしても町民の声を聞くことは必要。アンケートの方法をどうしたらいいかということも今後提案していこうと思っている。
委員	11番 今西	
委員	13番 中村	
副委員長	8番 田村	
委員	9番 小椋	
副委員長	8番 田村	
委員長	12番 松原	
事務局長	干場	
委員	13番 中村	
事務局	主幹 木幡	
委員	9番 小椋	
副委員長	8番 田村	
委員長	12番 松原	

令和7年第13回議員定数等調査特別委員会 要点記録

委員	13番	中村	・「どうしたらいいか」という丸投げは当然しないものとして、そのほかに気をつけてほしいのが、「こうすることにしたので、これに対して意見を」というやり方はしないでほしい。答えようがないし、答えても受け入れられないと思われる内容では町民に失礼に当たる。 「こうしようと考えているが、どうか」というように、聞き方に気を付けてほしい。 ・最終的に報酬額の良し悪しを決めるのは報酬審議会なので、そこで説明できる根拠があればいいと思っている。町民の意見はあくまでも参考で、それを基に積み上げた根拠などを覆すようなことにはならないと考える。 ・まずはしっかりと根拠をもった積算をして示し、それに対して町民の意見をもらい、それを付して審議会にかけるといった手順は必要。 - 私も、声の大きな町民に左右される部分があるので、必ずしも全てを取り入れる必要はないと考えている。審議会にかけるにあたり、町民の意見はあくまでも「付す」といった扱いが適切であるかと思う。 ・私もニュアンスとしてはあまり変わらない。反映の余地がない状態で、取りあえず意見は聞きましたというようなやり方をさけてもらえれば。 ・アンケートの内容や取り方については、今後事務局でも案を示しながら、適切な内容となるよう議論してもらえればいい。 ・今の議論を今後の参考とする。 - ほかに何かあるか。 ・なし。 ・次回開催日は4月25日10時としたい。 ・異議なし。
副委員長	8番	田村	
委員	9番	小椋	
委員	13番	中村	
事務局長		干場	
委員長	12番	松原	
委員		一同	
委員長	12番	松原	
委員		一同	
委員長	12番	松原	
委員長	12番	松原	閉会挨拶
委員長	12番	松原	11:56 閉会